

勘定科目

「簿記」とは取引を帳簿等に記録・集計することをいいますが、簿記でその取引を記録・整理するための方法が「仕訳」でした。仕訳は取引を「借方」（左側）と「貸方」（右側）に分けて記帳しますが、この取引の内容を示すものが勘定科目です。勘定科目も大きく分けると損益計算書関係と貸借対照表関係に分類できます。

1

損益計算書の内容

損益計算書は会計期間の収益・費用を集計し経営成績を示すものですが、この損益計算書関係の勘定科目は経営活動結果の内容が異なるごとに各種利益を計算するように区分されています。

損益計算書の大まかな区分を示すと次のようになります。

<経常損益の部>

(営業損益の部)

①売上高	(+)	収益の代表的勘定科目である売上勘定科目関係を記載
②売上原価	(-)	費用の代表的勘定科目である売上原価科目関係を記載
③売上総利益	①-②	会社の経営活動の原資となる利益
④販売費及び一般管理費	(-)	販売管理活動に伴う費用の勘定科目を記載
⑤営業利益	③-④	会社の営業活動の結果としての利益

(営業外損益の部)

⑥営業外収益	(+)	営業活動に直接関係ない収益の勘定科目を記載
⑦営業外費用	(-)	営業活動に直接関係ない費用の勘定科目を記載
⑧経常利益	⑤+⑥-⑦	会社の経営活動の結果としての利益

<特別損益の部>

⑨特別利益	(+)	臨時的・特別な利益の勘定科目を記載
⑩特別損失	(-)	臨時的・特別な損失の勘定科目を記載
⑪税引前当期利益	⑧+⑨-⑩	会社の活動の結果としての利益
⑫法人税及び住民税	(-)	法人税・住民税の金額
⑬当期利益	⑪-⑫	税金の支払後会社に残る利益
⑭前期繰越利益	(+)	前期から繰り越されてきた利益
⑮当期末処分利益	⑬+⑭	会社の利益処分していない利益

利益は収益から費用を控除して計算されますが、この式を変形すると次のようになります。

$$\text{収益合計} = \text{費用合計} + \text{利益合計}$$

2

貸借対照表の内容

貸借対照表は、決算日等における一定の財産と債務の状態を示すものですが、その財産内容が異なるごとに勘定科目を区分し、次のような分類がされています。

<資産の部>

①流動資産

1年以内に資金化または営業活動により生じた資産勘定科目を記載

②固定資産

1. 有形固定資産 形のある固定資産に関する勘定科目を記載
2. 無形固定資産 形のない固定資産に関する勘定科目を記載
3. 投資等 投資等の固定資産に関する勘定科目を記載

③繰延資産

1年で費用化できない繰延資産に関する勘定科目を記載

資産の部 計 ①+②+③

<負債の部>

①流動負債

1年以内に支払う負債や営業活動により生じた負債勘定科目を記載

②固定負債

1年を超えて支払う負債勘定科目を記載

負債の部 計 ①+②

<純資産の部>

①資本金

株主または社員から払い込まれた資本金または出資金

②資本剰余金

資本準備金とその他資本剰余金

③利益剰余金

1. 利益準備金 利益のうち会社法で積立強制されているもの
2. 任意積立金 利益のうち利益処分で任意積立金に積み立てたもの
3. 繰越利益剰余金 利益のうち利益処分していないもの

純資産の部 計 ①+②+③

負債の部・純資産の部 計 負債の部と純資産の部の合計

資産の部合計と負債の部と純資産の部の合計は、必ず一致します。これを、算式にすると次のようになります。

$$\text{資産合計} = \text{負債合計} + \text{純資産合計}$$